

縁をつなぎ、安心をとどけるお寺

清元院だより

第28号

【清元院の「大ヤブツバキ」】

清元院の池庭の上に大きな「ヤブツバキ」が立っています。樹齢300年とも言われています。

言い伝えによると清元院はツバキに囲まれた寺でした。現在8本残っていますが、その中でもひと際大きいのがこのヤブツバキです。地上3mで3又に分かれて空に向かって伸びています。

ヤブツバキは、昔から防風林や防火林としても使われてきました。戦前の清元院は茅ぶき屋根だったため、防風・防火対策はとても重要だったことは想像に難くありません。

600年間一度も火事に遭っていない清元院を守り続けている大ヤブツバキ。温かい目で見守ってやってください。

※お寺の裏道から、いつでも誰でも見ることができま

樹高約15m・直径約60cm・幹回り約180cm

誌上法話⑯

以西ふるさとめぐり⑭

活動紹介⑫「年末大掃除」

のんのんさま⑪

イベント情報・お知らせ

発行：曹洞宗大梁山清元院 住職 井上英之

佛歴二五六九年 令和8年3月13日

誌上法話⑮

「お彼岸はあなたのための七日間」

◆もうすぐお彼岸(春彼岸)がやってきます。

◆お彼岸というと先祖のために供養する期間…と知っている人がほとんどだと思います。でもそれは、七分の一しか当たっていません。

◆仏教では……

・「彼岸(ひがん)」「彼(川の向こう側)の岸。仏様の悟りの世界。

・「此岸(しがん)」「此(川のこっち側)の岸。私が住む迷いの世界。

と考えます。そしてお彼岸の七日間は、私たちが迷いの岸から悟りの岸(迷いがなく安心な世界)へ渡るために、六波羅蜜(ろくはらみつ)という六つの徳行を一日ごとに実践し生活を正す期間なのです。ですから、お彼岸は私たちの修行の強化週間ともいえるかもしれません。

◆その修行を、一年で最もバランスのよい時期(夜と昼の長さが同じ、季節は暑くも寒くもない、太陽が真東から昇り真西に沈む)に行います。

【お彼岸の過ごし方】

①一日目【布施(ふせ)】人に惜しみなく分け与えます。親切言葉・思いやりも布施。

②二日目【持戒(じかい)】悪い行いを慎み、正しい生活を心がけます。

③三日目【忍辱(にんにく)】怒りを抑え、人を責めず、寛容な心を養います。

※四日目(中日)彼岸を思い、先祖に感謝する日です。

④五日目【精進(しょうじん)】善い行いを怠ることなく努力し続けます。

⑤六日目【禅定(ぜんじょう)】坐禅などで心を静め何が正しいのか見極めます。

⑥七日目【智慧(ちえ)】真理を見抜き、物事を正しく見て理解する心を養います。

◆私たちは、日常の生活に追われ、本当に大切なことを見失いがちです。お彼岸は、年に二回、自分自身に向き合い、生き方を点検する大切な期間です。

◆そして、今ある自分を育ててくれたご先祖様に、生き方を点検・修正した自分をお供えするのです。

◆「供養とは、自分の生き方をお供えすること」。あなた自身が一番のお供えです。

◆お彼岸は「あなたのための七日間」です。どうぞ丁寧に過ごしてください。



以西ふるさとめぐり⑭ ～番外編～ 法事に「赤飯・パン」を供えるのはなぜ？

【もち米・小豆・砂糖は貴重品】

この清元院がある以西(いさい)地区では、法事に赤飯やパンをお供えする珍しい風習があります。

その理由は「もち米・小豆・砂糖」にあると亡くなった祖母が小学生の私に教えてくれました。

伯耆・因幡の国で貴重な食べ物として普段家族は口にせず大事にしてきたものがある。もち米・小豆・砂糖の3つ。大事に保管し、祝いで供養でも心を込めたいときに使うのだと。だから祝いで供養でも赤飯を蒸し、甘いお菓子を添える。法事にお供えする赤飯と砂糖にはそんな昔からの心がこもっているのだそう。

また、戦後のもち米が手に入りにくい時に、よく手に入った小麦を代用して、あんパンを供えるようになったそう。なるほど中身は小豆と砂糖だ。その後、ジャムパンやメロンパンなど色々なパンもお供えされるようになり、さらには法事まんじゅうが流行った時期もある。この法事にパンを供えるのは、旧赤碕町から西側の風習で、旧東伯町から東には見られない。

ところで、この貴重な3つの食材を家族全員が腹いっぱい食べることで、できる日が年に一度ある。正月だ。雑煮と称して小豆ぜんざいを食べる。この鳥取県独自の風習は、子どもの頃の祖母にとって最高に幸せな時だったそうです。

(※諸説あります)



活動紹介⑫

年末大掃除ボランティア

2025年12月20(土)



『頼ること 任せること』

住職の体調不良もあり、急遽、年末大掃除ボランティアを募集しました。

公式LINEとSNSで募集したところ何と!! 21人も集まってくれました。お檀家さん11人、ご縁の方10人。小学生から高齢の方まで駆けつけてくださいました。米子から倉吉からもです。

はじめにお茶をして、途中の休憩でまたお茶。初対面の方も仲良しに。

ガラス拭きに位牌堂の段掃除、組木のほりに窓のさん。普段行き届かないところまで楽しく笑顔でテキパキと。2時間ですっかりきれいになりました。本当に感謝し
かありません。

帰る時は皆さん爽やかな笑顔。頼り任せることって、皆が笑顔になることなんだと気付いた、大掃除なのでした。

のんのんさま ⑪

元気な子どもたちを紹介
かがやく宝ほしけの子



(左) 谷本 ^{ひかり} 光 さん (13歳)
(右) 谷本 ^{はるか} 陽香 さん (10歳)

琴浦町赤碓金屋

谷本大輔さん・^{みさお}節さんのお子さん

《お父さん・お母さんより》

親になって早13年。すっかりお姉さんらしくなった光と陽香の姿を見るのは、嬉しくもあり、そして何よりとても誇らしく感じます。

あとどれくらい子どもたちと一緒にいられるのかと思うと、「今」という時間を大切にしたいと心から思います。

これからも姉妹仲良く、支え合える光と陽香であってほしいと願っています。

お知らせ&Events

お地藏様作り教室

大人気のイベントです。二部に分けて本堂をゆったり使って行います。

■3月22日(日)

■午前の部 9時半〜

■午後の部 13時半〜

■各20名限定

■参加費一人2500円

■要申し込み

※秋は9月21日を予定

※ご希望の方は早めに申し込まれることをおススメします。



はすとも 大募集

■3月29日(日) 午後1時半〜

桜の花が咲く頃、ハスの蓮根を植え替えます。全部で50鉢です。なので、住職一人では大変です。そこで蓮友(はすとも)を募集

し、みなさんと一緒に蓮を植え、育て、花を楽しみたいと思います。お手伝いいただいた方には**蓮根をおすそ分け**します。

みなさん「はすとも」に参加して蓮を楽しみませんか!
(※汚れてもよい服装で)



まきまき教室

■毎月開催

■今月は3月26日(木)

13時〜15時30分

■会場 清元院

■参加費 大人2000円

■講師 まきまきアーティスト

川和真紀さん

※小学生以下は保護者同伴

アクセサリーからオブジェまで、布を巻き巻きして何でも作ってみましょう。先生が丁寧に教えてくださいます。

■申し込み(3日前まで)

・インスタグラムの

DM(川和)

または清元院まで



「花まつり」に集合

お釈迦さまの誕生パーティーです。

■4月5日(日) 10時〜

法要・紙芝居・ビンゴゲーム

(※全員に景品あります!)

■「でこぼこしよちゃん」の

あそびうたコンサートも

■終日

・甘茶飲み放題

・甘茶かけ

・お土産

・甘茶あめ

・花まつりサイダー



第4回 生きるための終活 in 清元院



釈徹宗 先生

漠然とした終活の不安や悩みをお持ちの方に安心と専門的な知識をお届けします。

第4回の今回は…

「あの」**釈徹宗先生**をお招きして講演をいただきます。

■5月31日(日) 11時〜15時

■清元院本堂 ■先着30名

■入場無料

■プログラム

△11時V

●第一講 釈先生

《昼食:お弁当を販売します》

△13時V

●終活ミニ講座 清元院住職

「生きるための葬儀・供養・お墓」

△13時30分V

●第二講 釈先生

死の体験旅行

■6/20・10/18・12/5の3回

■時間 14〜16時

■参加費一人3000円

■定員 各回8名

■清元院へ直接申し込みください

◆七月までの行事

◇6月13日

お大師講

(午前10時)

◇6月20日

死の体験旅行

(14時〜16時)

※要申し込み

◆月例行事

■写経写仏の会

■第一日曜 午後3時

■坐禅会

■第三水曜

■午後7時30分

■お寺ヨガ・

■第四水曜

■午後7時30分

※期日は変更になることがあります。



清元院

〒689-2522 鳥取県東伯郡琴浦町宮木 57

TEL 090-4923-8768 fax 0858-55-7064

メール inotera1@gmail.com



公式 HP



Instagram



公式 LINE



Facebook